

6章 学習のまとめ

同様に確からしい

▶p.190

起こりうるすべての場合について、どの場合が起こることも同じ程度に期待することができるとき、そのどれが起こることも

同様に確からしい という。

次の㉗～㉙の中で、同様に確からしいことがらは ㉘ である。

- ㉗ 1個のペットボトルのふたを投げるとき、表が出ることと裏が出ること。
- ㉘ 1個のさいころを投げるとき、3の目が出ることと6の目が出ること。
- ㉙ 明日の天気が晴れであることと雨であること。
- ㉚ 100本のうち5本が当たりくじであるくじを1本引くとき、当たりくじを引くこととはずれくじを引くこと。

確率の求め方

▶p.190

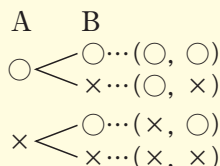
起こりうるすべての場合が n 通りあり、そのどれが起こることも同様に確からしいとする。そのうち、ことがら A の起こる場合が a 通りあるとき、ことがら A の起こる確率 p は、次のようになる。

$$p = \frac{a}{n}$$

この章で学習した内容をふり返ってみましょう。

1枚の硬貨を2回投げたときの硬貨の表と裏の出方は、表を○、裏を×で示すと、下の表や図になる。

A \ B	○	×
○	(○, ○)	(○, ×)
×	(×, ○)	(×, ×)



起こりうるすべての場合は 4 通りあり、そのどれが起こることも同様に確からしい。

このうち、2回とも裏が出るのは 1 通りだから、その確率は $\frac{1}{4}$ である。

確率のとりうる値の範囲

▶p.192

あることがらの起こる確率を p とすると、 p のとりうる値の範囲は、次のようになる。

$$0 \leq p \leq 1$$

あることがらの起こらない確率

▶p.197

あることがら A について、次の関係が成り立つ。

$$\begin{aligned} & (\text{A の起こらない確率}) \\ &= 1 - (\text{A の起こる確率}) \end{aligned}$$

6章で見つけた❗をふり返って、学習感想をまとめてみましょう。

- わかったことやよかったこと
- 大切だと感じたことや気づいたこと
- さらに学習してみたいこと など



1年では実験をして確率を求めたけれど、実験をしなくても確率を求める方法もあることがわかった。

確率を求めるのに、小学校で学習した場合の数に役に立った。

表や樹形図を使うと、起こりうるすべての場合をもれなく求めることができてよかった。

確率を使って、もっと身のまわりのことがらを考えてみたい。

